

職員オススメ本 7月



「こまどりたちが歌うなら」 寺地 はるな／著 集英社

親戚が経営する『株式会社吉成製菓』に転職した二十七歳の小松茉莉。社員三十五名のちいさな会社の、総務的なことや経理的なことその他諸々の細かい仕事すべてを任された茉莉だが、会社の古いルールに違和感を覚え、改善を提案するがなかなか聞き入れてもらえず、戸惑うのであった。

まっすぐな姿勢で仕事に向き合う茉莉のお仕事小説です。



「タクシードライバーぐるぐる日記～朝7時から都内を周回中、
營收5万円まで帰庫できません～」

内田 正治／著 フォレスト出版

50歳でタクシードライバーに転職し、退職するまでの15年間で綴られたこの本。著者のお人柄の良さや仕事に向き合う真摯で丁寧な姿勢が伝わります。もちろん最初は苦労と試行錯誤、そして理不尽の連続。それでも少しずつお客様からの信頼を積み重ねていく。15年間の勤務で接してきたお客様の数は4万人以上。15年間にわたり1日約300kmを走行。タクシーという空間における一瞬の出会いの中で起きた喜怒哀楽が詰まっています。



「セカンドキャリア 引退競走馬をめぐる旅」

片野 ゆか／著 集英社



近年、ゲームの影響で再び競馬人気が盛り上がりを見せています。日本には7万頭の馬がいて、そのうちの7割が競馬に出走するサラブレッド。競馬の世界で生きる競走馬と気軽に触れ合えるチャンスはほとんどない。

だが、数年前からSNSなどで違う形で話題にあがることが多くなったその理由は、引退競走馬の存在。すべての馬が乗馬クラブなどで余生を過ごすと思われていたがその実情は衝撃的だった。

本書は、馬の知識ゼロの著者が引退競走馬をめぐる全貌を求めて各地を訪ね、支援に関わる様々な人と出会いながら引退競走馬支援などについて記録した一冊です。